



# 芸術大学整備基本計画 コンセプト (H20.3)

【背景： 現施設の老朽化／芸術教育の領域の拡がり／教育現場での対話重視／知のオープン化による創作環境の進展／地域社会との連携強化】

中部地域の高度芸術教育の拠点となり、国際レベルの次世代へ継承できる  
「オンリーワンの大学力」をもつ

## 「愛・知・芸術の森」

愛・知： 地域～世界と直結する / 芸術： 本質を追求する / 森： 人間性・感性を育む

### < 国際化 >

- 中部地域の芸術拠点
- 世界とリアルタイムに結ばれる
- ・芸大の顔づくり、0-カティの発信拠点
- ・地域～世界とコラボできる情報環境
- ・芸大らしい芸術領域(融合)を展開、その拡張余地を見越した将来計画を

### < 連携 >

- 地域貢献・地域連携
- 地域産業、経済に貢献する仕組み
- ・訪れた人が、キャンパス奥深くまで回遊
- ・演奏堂、美術館へのアクセス
- ・アトリエ等に止まらず、協同研究を展開するための基盤

### < 機能 >

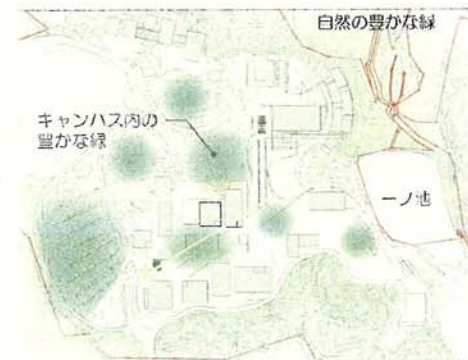
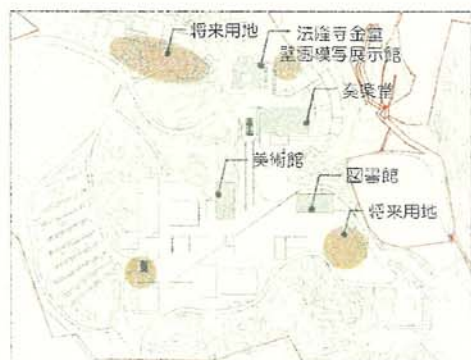
- 施設における機能性を重視
- 環境性能に重点
- ・自然採光・音響等、環境性能を徹底
- ・快適な研究生生活ができる設備(空調)
- ・自らを高め、互いに刺激し合う場
- ・施設へのアクセス(資機材・楽器搬出入)

### < 生活 >

- 生活空間としてのキャンパス
- 豊かなキャンパスライフの保証
- ・美術と音楽の融合を育むスペース
- ・静穏と活気のメリハリ、快適な環境
- ・貴重な森、緑、広がる景観の継承
- ・学生、先生の対話が弾む憩いの場

### < 環境 >

- 景観に配慮、循環型社会への対応
- サステナビリティと持続性
- ・ゼロエミッションの実現
- ・環境負荷を抑制、ライフサイクル最小化
- ・超寿命のキャンパス・建築(ゆとり)
- ・自然「緑」を活かす(光・風・雨・緑)



- 芸術創造・情報センターによるキャンパスの顔づくり。
- 現学生寮の敷地を研究用地として確保、また各学部ゾーンにおいても将来用地を確保し、新領域に対応。
- 国際レベルの教育に対応できる施設づくり。

- 演奏堂・美術館などキャンパスの顔として位置づけ、キャンパス奥部まで人を招き入れ、地域に開放した設えとする。
- 各施設に対応した駐車場を確保し、訪れる人の利便性を確保。

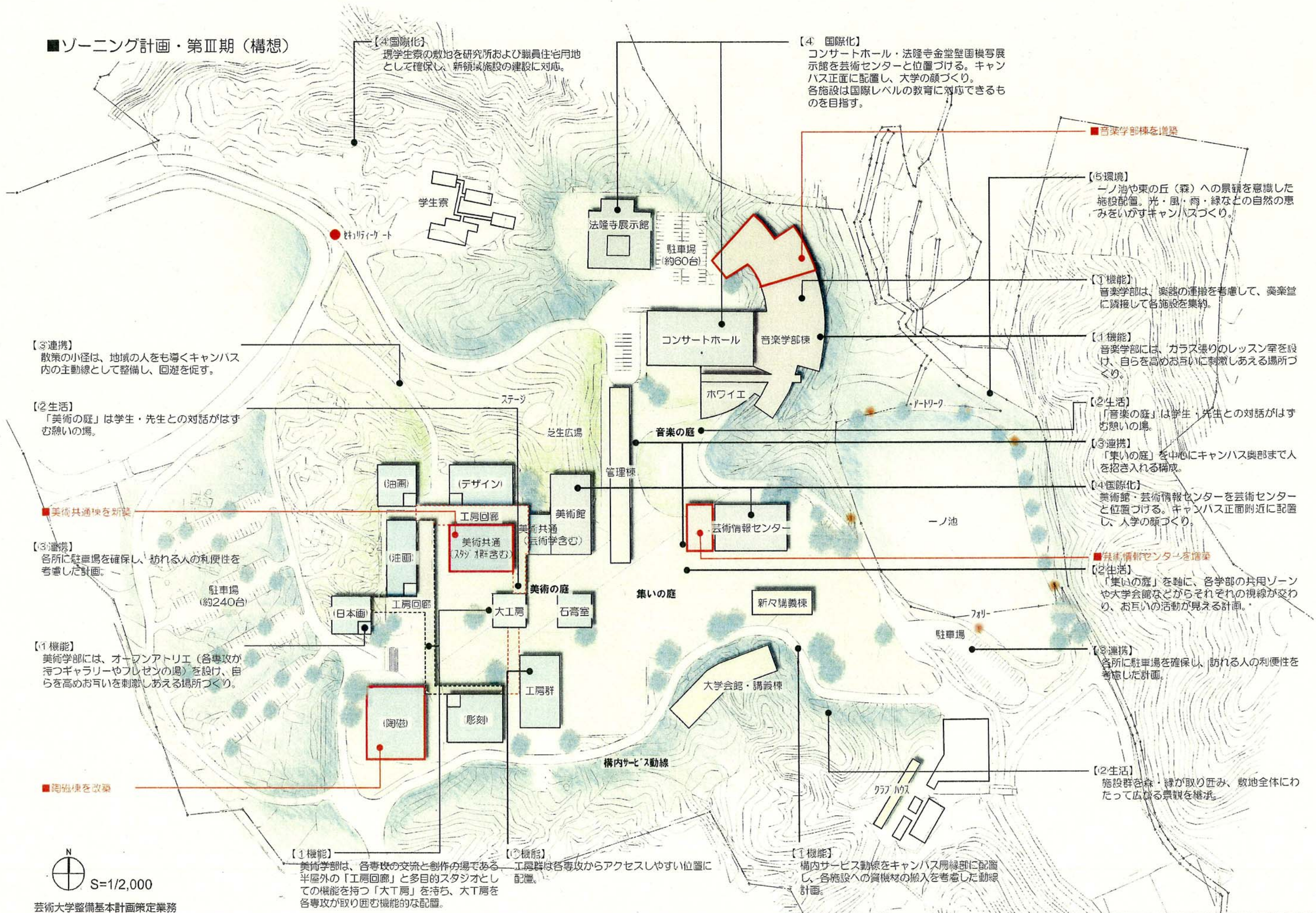
- 工房回廊(交流と創作の場)を持つ美術学部の各専攻が大工房を取り囲む機能的な配置。また音楽学部棟は演奏堂と隣接して集約し、機能性を重視。
- オープンアトリエやガラス張りのレッスン室等、自らを高め互いに刺激しあう創作の場を計画。
- 構内サービス動線をキャンパス周縁部に設置し、各施設への資機材の搬入を考慮。

- 「集いの庭」を軸に、音楽学部と美術学部の共用ゾーンや学生会館などからそれぞれ視線が交わりお互いの活動が見える構成。
- 各学部には「美術の庭」「音楽の庭」を設け、学生・先生との対話がはすむ憩いの場となる。
- 施設群を森・緑が取り囲み敷地全体にわたって広がる景観を継承。

- 一ノ池や東の丘(森)への景観を意識した施設配置。
- 光・風・雨・緑など自然の恵みを生かすキャンパスづくり。
- 環境負荷を抑制し、ランニングコストの低減を図る。
- 将来のリニューアルを考慮した長寿命のキャンパスを目指す。

< 継承 > 緑豊かな環境 / 施設配置の間と群 / 視線と見通し

■ゾーニング計画・第三期（構想）



【4国際化】  
現学生寮の敷地を研究所および職員住宅用地として確保し、新領域施設の建設に対応。

【4 国際化】  
コンサートホール・法隆寺金堂壁画展示館を芸術センターと位置づける。キャンパス正面に配置し、大学の顔づくり。各施設は国際レベルの教育に対応できるものを目指す。

■音楽学部棟を建築

【5環境】  
一ノ池や東の丘（森）への景観を意識した施設配置。光・風・雨・緑などの自然の恵みをいかにキャンパスづくり。

【1機能】  
音楽学部は、楽器の運搬を考慮して、演奏堂に隣接して各施設を集約。

【1機能】  
音楽学部には、ガラス張りのレッスン室を設け、自らを高めお互いに刺激しあえる場所づくり。

【2生活】  
「音楽の庭」は学生・先生との対話がはさむ憩いの場。

【3連携】  
「集いの庭」を中心にキャンパス奥部まで人を引き入れる構成。

【4国際化】  
美術館・芸術情報センターを芸術センターと位置づける。キャンパス正面附近に配置し、入学の顔づくり。

■芸術情報センターを建築

【2生活】  
「集いの庭」を軸に、各学部の共用ゾーンや学生会館などからそれぞれの視線が交わり、お互いの活動が見える計画。

【3連携】  
各所に駐車場を確保し、訪れる人の利便性を考慮した計画。

【2生活】  
施設群を森・緑が取り囲み、敷地全体にわたって広がる景観を継承。

【3連携】  
散策の小径は、地域の人をも導くキャンパス内の主動線として整備し、回遊を促す。

【2生活】  
「美術の庭」は学生・先生との対話がはさむ憩いの場。

■美術共通棟を新築

【3連携】  
各所に駐車場を確保し、訪れる人の利便性を考慮した計画。

【1機能】  
美術学部には、オープンアトリエ（各専攻が持つギャラリーやプレゼンの場）を設け、自らを高めお互いを刺激しあえる場所づくり。

■陶磁棟を改築

【1機能】  
美術学部は、各専攻の交流と創作の場である半屋外の「工房回廊」と多目的スタジオとしての機能を持つ「大工房」を持ち、大工房を各専攻が取り囲む機能的な配置。

【1機能】  
工房群は各専攻からアクセスしやすい位置に配置。

【1機能】  
構内サービス動線をキャンパス周縁部に配置し、各施設への資機材の搬入を考慮した動線計画。

